

第10回

# 対話型鑑賞 ファシリテーター 養成講座

鑑賞ファシリテーターとしての  
**理論と実践**を学ぶ充実の3日間！

日時

**2019年2月16日(土)10:00-17:00**  
**2月17日(日)10:00-17:30**  
**3月16日(土)09:30-19:00**

会場

都内（お申込後お知らせいたします）

受講料  
定員

個人：54,000円 法人：81,000円（いずれも税込）  
定員：15名

申込方法

<ウェブフォームからのお申込みはこちらをクリックしてください>

- ・QRコードを読み取ると出て来るメールの必要事項を記載の上お申込みください。
- ・直接メールをお送りいただく際はタイトルを

「対話型鑑賞講座申込み」として下記の情報をお送りください。

1 氏名、2 年代、3 住所、4 メールアドレス、5 電話番号

6 所属・勤め先、7 講座を知った経緯

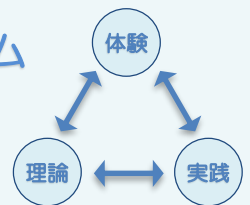
お席の確保有無は追ってこちらからご連絡いたします。

【メール送信先】seminar@arda.jp（担当：白山）



# 1 体験・理論・実践のバランスがとれた充実プログラム

自分が体験し観察したものが理論とどう結びつくのかを知り、理論に基づくアクションを考え、試して実際にどんな効果があったかを振り返るなど、体験、理論、実践を繰り返して学びを深めることができます。



# 2 少人数制だから丁寧・的確なフィードバックが得られる

講師から受講生一人ひとりへのフィードバック時間が多く設けられており、丁寧・的確なアドバイスが実践力をより高めます。また、受講生同士で積極的に意見を発しあう機会もたくさんあり、切磋琢磨しながら学びあうことができます。

# 3 修了後も学び続けられる、フォローアップ環境が整っている

講座終了後もファシリテーターとしてスキルアップし続けたいという修了生の声を反映し、修了生同士による勉強会を毎月行っています。期を超えた交流の場で、刺激を受けながらスキルアップを目指すことができます。

対話型鑑賞を体験したことのない方からすでに実践されている方まで、幅広いニーズに対応できるカリキュラムとなっています。

1 日目	オリエンテーション レクチャー： 対話型鑑賞とは？ ファシリテーターの3つの質問と7つのポイント 実践： ミニ・ファシリテーション
2 日目	鑑賞体験 レクチャー：作品選びについて 実践： コーチング・ファシリテーション
課題の提出と講評	
3 日目	レクチャー： ファシリテーターとしての準備 実践： コーチング・ファシリテーション

鑑賞者体験で、感じたことを言葉にできなかったのが、何度も体験していくうちに言語化しやすくなりました。それがファシリテーターの実践にも活かさと思います。(中学校教員)

内容満載で、いつもと違う脳を使ったのでとても疲れしました(笑)。作品選びではとても悩みましたが、学びも多かったです。(起業準備中)

実践を通して理解を深められました。本を読むだけでは得られない実感として学べたのが良かったです。(美術教員)

実践の大切さが身に沁みました。実践で場が盛り上がると楽しくもつやりたくなりました！(会社員)

やればやるほど面白いですが、自分の課題点がたくさん見えてきました。今後も学び続けたいです！(公務員)



## 三ツ木紀英(みつきのりえ)/アートエドゥケーター・ARDA代表理事)

英国留学後、フリーランスや NPO の立場で、美術施設だけでなく街や施設の中で展覧会・ワークショップのコーディネーションを行う。ニューヨーク近代美術館の元教育部長フィリップ・ヤノウィンより、一年にわたり Visual Thinking Strategies を学び、近年は対話による美術鑑賞のファシリテーター育成することで、社会とアートの接点を開拓中。

●主な仕事：大和市、西東京市「対話による美術鑑賞事業」プロジェクト・エドゥケーター、東京都美術館とびらプロジェクト鑑賞実践講座講師(2012年～)等多数。

●執筆：共著「現代アートの本当の楽しみ方-表現の可能性を見つけにいこう-」(フィルムアート社/2015年)、共著「現代アートの本当の見方-見ることが武器になる-」(フィルムアート社/2014年)、「岡本太郎とアール・ブリュット」展カタログ「今日(こんにち)のワークショップ-自分の中に全体性を取り戻す-」(川崎市立岡本太郎美術館/2013年)等。



## 主催・お問い合わせ

主催：NPO法人芸術資源開発機構(ARDA アルダ) <http://www.arda.jp/>

お問合せ先：seminar@arda.jp(担当：白山)